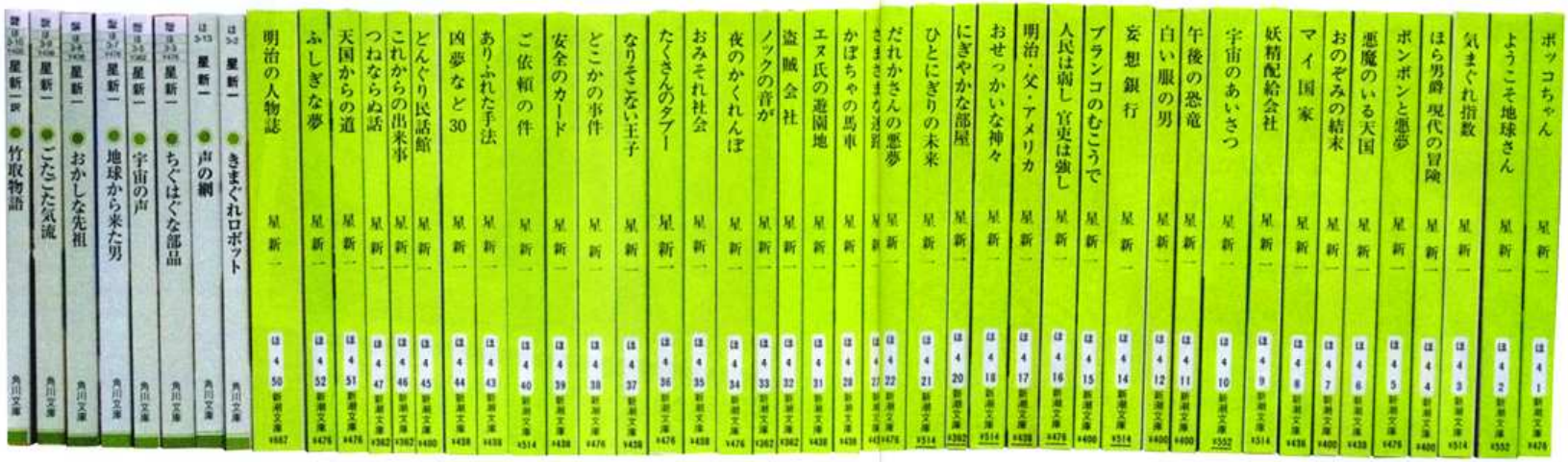
# 一〇〇一話に挑戦した作家

生涯で1000話以上のショートショートを世に出した星新一。その作品は新潮社をはじめ、角川書店などからシリーズとして多数出版されている。星新一がこの世を去って10年以上を経た現在でも色あせない作品たちは、作家のアイデアの結晶でもある。




## 星作品ベスト3

1999年メモリアルイベント「ホシヅルの日」セレクト

1997年にこの世を去った星新一のメモリアルイベント「星新一さんを偲ぶ会『ホシヅルの日』」（1999年9月11日）に参加した400名以上の星新一ファンによって選ばれた3作品。

**best 1**

### 『おーい でてこーい』

「ボッコちゃん」収録／新潮社

台風で流された社の跡にあらわれたのは、直径1メートルほどの、底知れぬ深さを持つ穴。人々はそこに、原子炉のカスや機密書類、元恋人の写真などを捨てていくが……。

**best 2**

### 『ボッコちゃん』

「ボッコちゃん」収録／新潮社

店で人気のボッコちゃんは、マスターが趣味で作った美人ロボット。複雑な会話はできないが、誰もロボットだとは気づかない。ある日、ボッコちゃんに恋する青年が別れを告げにやってくる。

**best 3**

### 『午後の恐竜』

「午後の恐竜」収録／新潮社

町に突如出現した恐竜。しかし実物ではなく、蜃気楼のように実体がない。恐竜から巨大なトカゲに変わり、やがて人類の祖先もあらわれ、現代へとその幻影は近づいていくが……。

## 星新一のルーツを知るための3冊

星新一はショートショートを執筆しながら、父や祖父の評伝も書いていた。特に、会社の仕事に追われ、話す機会の少なかった父・星一の人生には、ひとかたならぬ関心を寄せていた。

### 『明治・父・アメリカ』

新潮社

福島の田舎から東京に出てきた星新一の父・星一。貧しかった彼は、住み込みで働きながら小学校で英語を学び、行商や翻訳の仕事をして大学の学資を稼いだ。そして20歳で単身アメリカへ。星製薬を創業した星一の、野心に満ちた若き日々を描く。

### 『人民は弱し 官吏は強し』

新潮社

明治末期、アメリカ留学から帰った星一は製薬会社を創業した。事業は飛躍的に発展したが、彼の自由な発想は保守的な考え方にとらわれた官僚たちから反感を買う。権力をふりかざす官僚組織に最後まで屈することのなかった父の姿を描く。

### 『祖父・小金井良精の記』

河出書房新社

星新一の祖父・小金井良精は、安政5年に越後長岡藩士として生まれた。戊辰戦争に破れて迎えた明治維新後は医学部に入学し、ドイツ留学を経て解剖学の草創期を築く。星新一が自らのルーツを探った歴史評伝小説。

## 星新一 PROFILE

**1926**
東京に生まれる。

**1933**
東京女子高等師範附属小学校に入学。
「ひょうきんとはどういうことか」という先生の質問に対し、「はい？」と一言、クラスを笑いの渦に巻き込む。教室では突拍子のない発言をして注目を集めた。小学校時代から鋭い観察眼を感じさせる簡潔な文章を書く。しかし、長文と感情表現は苦手だった。

**1945**
東京帝国大学農学部農芸化学科へ入学。

**1951**
父・一がロサンゼルスで逝去し、星製薬社長に就任。

**1952**
臨時株主総会で、代表取締役社長を辞任。副社長に。
仕事もあまりなく、映画と碁、そして短編小説を読むのが気晴らしだった。

**1957**
日本空飛ぶ円盤研究会の仲間と同人誌「宇宙塵」を創刊。
第2号に発表した「セキストラ」が大下宇陀児の目にとまり、「宝石」11月号に転載、商業誌デビューを果たす。同作品は江戸川乱歩にも衝撃を与えた。

**1958**
星製薬取締役を退任。
「宇宙塵」9号に「ボッコちゃん」を発表。書きあがった時に「これだ」と叫ぶほどの納得の出来だった。

**1961**
「弱点」「生活維持省」など6編が、第44回直木賞候補作となる。

**1967**
初のノンフィクション「人民は弱し 官吏は強し」を刊行。

**1968**
「妄想銀行」および過去の業績に対して、第21回日本推理作家協会賞を受賞。

**1972**
初の時代小説集「殿さまの日」を刊行。
原稿用紙約100枚に挑む（それまで20枚程度が主流だった）。執筆にあたって、池波正太郎に取材、「伸びた殿様のヒゲは誰が剃るのか」など、予想外の質問の数々は池波を困らせたという。

**1973**
星新一のファンクラブ「エヌ氏の会」が発足。
日本初の小説家の全国的なファンクラブと言われている。

**1983**
ショートショート1001編を達成する。
複数の雑誌に、同時に9編のショートショートを発表したため、「1001編目」にあたる作品はない。

**1986**
膨大な作品の改訂作業を開始。

**1988**
新潮文庫の星作品の発行部数が2000万部を突破する。

**1996**
自宅で倒れ、東京慈恵会医科大学附属病院に入院。

**1997**
12月30日、逝去。